

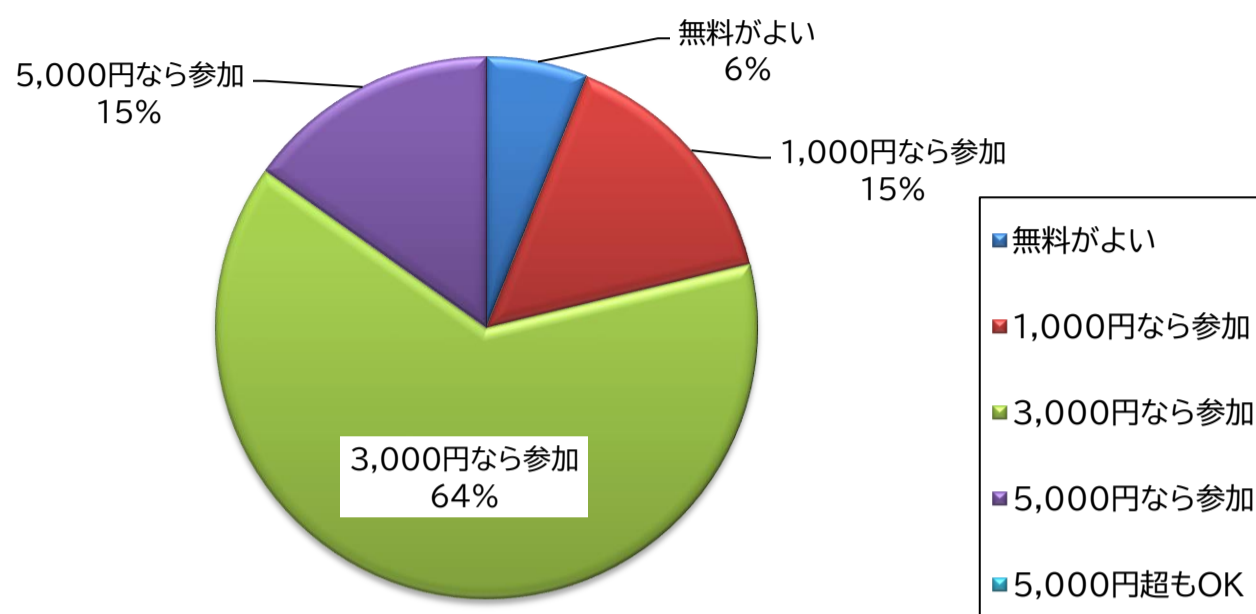
第1回テーマ:『ゲノム編集食品のリスコミのあり方』

【開催日】2021年4月25日(日) 13:00~17:50

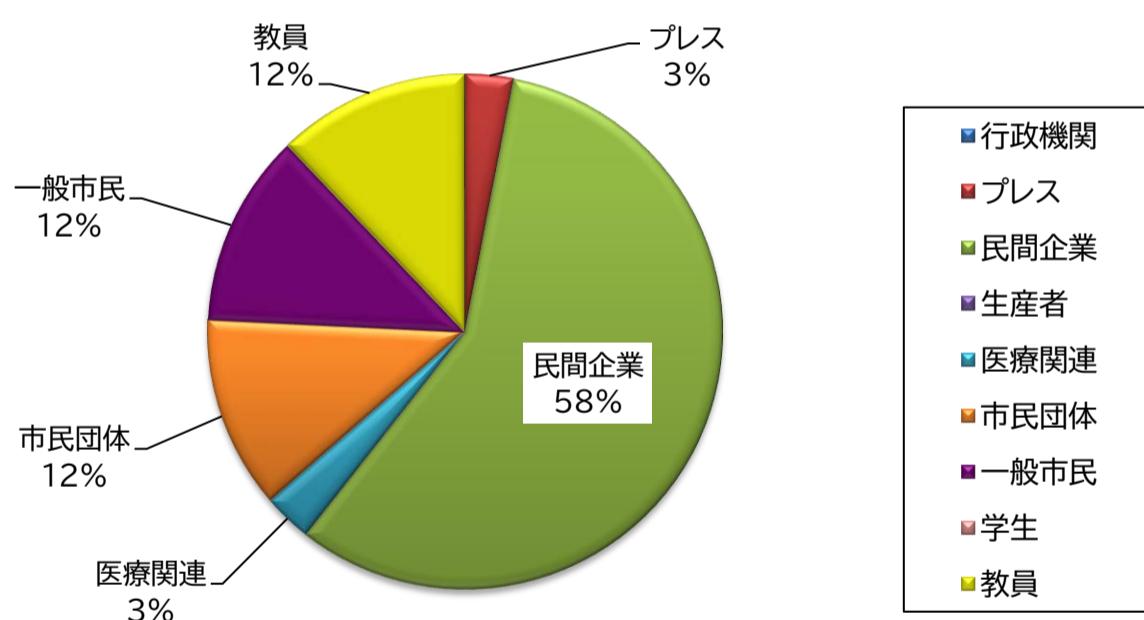
【開催場所】オンライン開催(Zoom)

アンケート回収数33枚(参加者:80名、演者5名を除いた回収率:44%)

参加費(NPOへの賛助)について

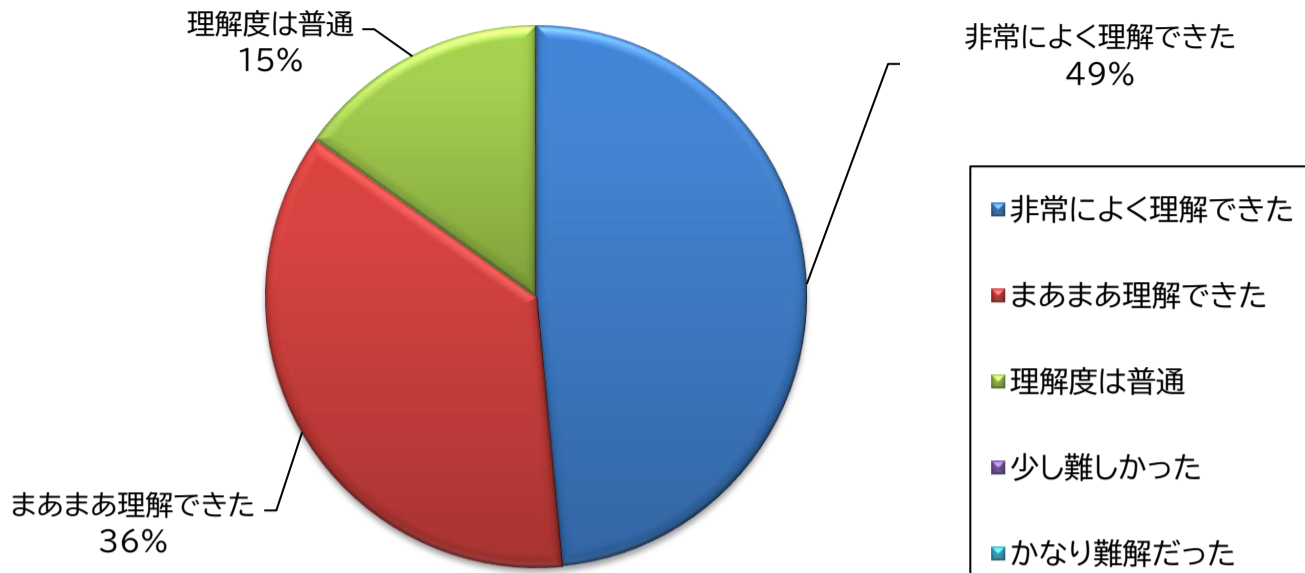


参加者のご職業について



① 小島 正美(元毎日新聞編集委員)『ゲノム編集トマトが世界初の国産ビジネスに育つ条件は何か』

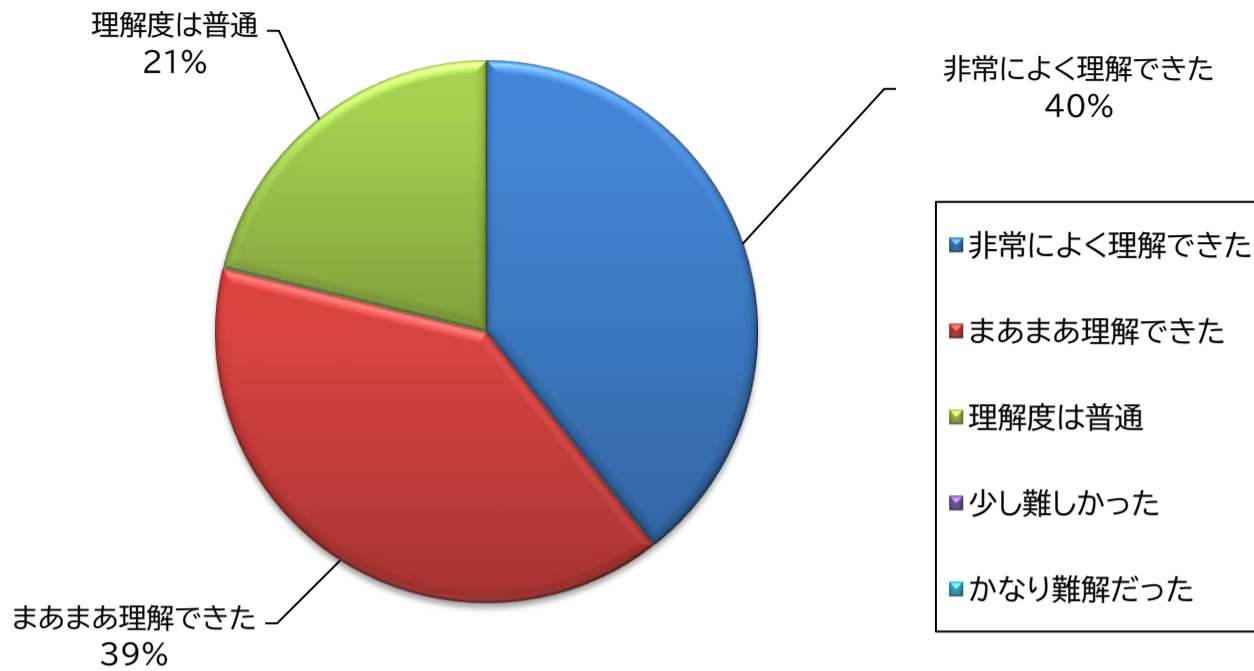
ご講演内容の理解度について ① 小島 正美



ご自身のお立場からメディアとしての努めて客観的な分析が参考になった。
大いに賛同する内容でした。
一般消費者の理解はあとというのはその通りで、専門的な話を深く理解できる人は多くはないと思います。世の中に出てから、その価値があると感じられれば広がるでしょう。知らないで食べてしまっていたということがないように、ゲノム編集トマトを世の中に広げながらうまく正しい情報を伝えていくことができればよいと感じています。一般消費者に不要なバイアスを形成させないような情報提供、リスクミを考えたと思います。
GM食品と対比しつつ、お話しを進めて、幅広い広報戦略までご提案されており、関心をくすぐられました。
食品以外の市場認知からのご意見はとても面白いと感じました。
国内初の事例にも関わらず、起こりうる可能性を列挙いただき理解が進んだ
食品事業者に寄り添ったメディア視点での考察が非常に興味深かったです。GM作物の実態と消費者の認識のずれ(表示対象外の食品では大量に使用されている)、GM作物とゲノム編集食品との相対比較等、非常に分かりやすく参考になった。GM作物は背景として印象の悪い巨大企業発だったため、消費者の関心が高く否定的な意見が多く、国からの関わりが薄く、メーカーにおいても適切な対処が出来ていなかった。また、特にビールメーカーのアンケート結果が印象的で、初動の適切性を欠いたことで、その後も軌道修正出来ずに非合理的な状況を作ってしまったのは興味深かった。個人的にも模範解答の内容が適切だと考えています。
モノが出てから受容は判断されるというのはよくわかるのですが、一方でいかにニュースに取り上げさせるかについても、非常に強調された講演だったと感じました。どちらも重要で、その通りだと思いますが、ゲノム編集作物がGMと同じ道をたどらないためには、受け入れられない人に対しても、やはり世に出す側の真摯な姿勢、受け入れられないことを理解する姿勢が大事なのかと思いました。
元メディア関連の方から、消費者への浸透させるアイデアを聞いて興味深く聴講させていただきました。
非常に興味深い内容でした。ありがとうございました
安全審査の必要有無、売る側買う側の利害一致についてスマホや鬼滅の刃の例え話がわかりやすかったです。
メディアを徹底的に使用しての発想は具体的にされればかなり成功すると感じました。
特にP28説明でよく現状理解できました。不安を解消する事、しっかり説明する事も大切。ただ「目的」を明るく伝える工夫が必要(だからアンバサダーといった提案だと思う)如何せん広告宣伝費がかさみそう、先達の苦勞である。
日本で生まれた素晴らしい技術を、遺伝子組み換えのときのようなリスクミの失敗で終わらせたくない。小島先生の商品戦略アイデア、実現できたら素晴らしいです。
スマホを例に挙げて、理解(リスクミ)が最初でなくても良いという意見は、なるほどと思いました。「記事は一過性、記者は永遠」もジャーナリストならではの経験に基づいた印象に残る表現でした。
小島さんのおっしゃるように、一般の消費者は新聞の見出しに左右されるところがあると思う。メディアは消費者を誘導するような、安易に不安に陥らせるような報道にならないようにすべきだと思う。
いつも明確な分析内容で、今回もゲノム編集トマトのメディアとしての姿勢について大変興味深いご講演でした。急ぎ足にされた点は残念でした。
長年の記者経験に基づく、GM作物とゲノム編集作物の比較が興味深かった。
できるだけ事前配布の資料と同じ資料での展開を望みます。
今後トマトだけでなく消費者にメリットのある作物に展開してこそ、ゲノム編集の技術が国民に受け入れられ期待されるとおもいます。遺伝子組み換え穀物が生産者メリットから始まった事が未だに消費者に受け入れられない最大の誤りです。当時のメディアや市民団体は反対の狼煙を上げ農水・厚生は受け身になっていた、メーカーは消費者の優劣誤認を恐れ表示に前向きでなかった。ゲノム編集作物が遺伝子組み換えが受け入れられる好機と思います

② 竹下 達夫(サナテックシード(株)代表取締役会長)『ゲノム編集トマトをどう世に出すか』

ご講演内容の理解度について ② 竹下 達夫



割り切ったご意見が横からバイテク品種の社会的問題に風穴を開けるかもしれないと思った、ただ長村先生ご指摘の機能性を客観的に示す責任を負うことは求められるだろう。

竹下会長の新商品にける思い入れがよく分かりました。

トマトを長年栽培してきたという個人的な興味で、今回ゲノム編集トマトを栽培できることを楽しみにしています。たまたま応募するきっかけがありモニターになれたのですが、自分が栽培して食べてみるができることで、偶然にもゲノム編集のリスクにも大変役に立つことになりそうです。また、今回のお話を聞いて、栽培してわかったことを多くの人にフィードバックすること、どのようにお役に立てるのか、考えてみます。

会社の概要、今回のトマトの位置づけなどが最初に説明されれば、もっと理解が進んだと思います。さまざまな工夫や努力、熱意を感じることができました。

健康機能を謳っていますが、特保とどのように関わっていくかが課題と思いました。

理念や事業内容は非常に賛同出来る内容でした。表示をすることで消費者に選択できるようにする、というのはその通りだと感じたが、将来的に小売りの販売を考えると、判断力がある方がどれだけのいるのかという視点も必要に感じました。世の中では思想的にアンチの方もいれば、分からないものはとりあえず否定する方もいる為、小売りは①なぜ取り扱っているのか、②安全性の根拠は、③体調が悪くなったがゲノム編集トマトを食べたせいではないか、、、等様々なご指摘が予想される中で、対応コストを考えると、正直手を出しづらいと感じる。小売りの立場ではいやだったら買わないでくださいという消費者の選択は非常に困難。消費者のリテラシーを高める為、許容される文化醸成の為、貴社お取組みに期待しております。

サプライチェーンを省略し、直接プロシューマーに訴える手法は斬新なビジネスモデルで非常に面白いと思います。一方で、家庭菜園農家はプロ農家ほどうまくトマトを作れないため、十分なおいしさを出せず、品種への誤解が生じないかという不安があります。私も昨年初めて家庭菜園でトマトを作りましたが、自分で作ったものというバイアスがあっても、スーパーで売ってるトマトと同等かそれより劣る味かなと感じました。可能であれば、プロが作ったトマトを、希望者には有料でも販売するのはいかがでしょうか？比較サンプルという形でやれば、自分の家庭菜園の腕がどんなものか考えられていいかなと思いました。また、食べたくない人は食べなきゃいいというのは正論ですが、潜在的顧客を遠ざける結果にしかならないかと感じます。事実として、そうであっても、新規技術を浸透させる段階で反感を招きかねないのではと思います。

Direct to Consumerの手法を取った妥当性を理解できました。今後消費者の理解が進み、スーパーに並ぶところを見たいと思いました。

同じ民間事業者として大変共感しておりました。機能性表示よりさらに上のトクホを取る予定はありますか？ないのであればどういう経緯からとらない判断になられたのかお伺いしたかったです。

製品の安全性について、十分なデータはあるのでしょうか？一般への市場拡大については十分な科学的データが必要と思われませんが。

BtoBでなくBtoCで進めるプロモーションが非常に面白く、今後の動向、展開もとても興味を持ちました。ジャストアイデアですがコンビニで高GABAトマトのサラダや惣菜の販売が定着すると「毎日の食事に欠かせない」というひとにも手軽に提供できて面白いと思いました。コンビニの専用工場であれば種子からの栽培時点で取組みを一緒にするなど実現可能なような気がします。

取り組み方が常套手段でない点に興味を引かれた

ただ竹下会長より非常にポジティブな発言をいただいた。「分かってもらいえないのでは？」と疑心暗鬼になるのではなく、まずは必要としている方に目的・意義を直接伝える方法、素晴らしいと思います。ただエビデンスは必要、機能性表示食品の届出、特定栄養成分が一定以上ある事の確認、言質を取られないよう工夫頂きたい。まさに先達の苦勞である、楽しみにしております。

興味のある消費者が参加できる取り組み、素晴らしいです。農家やスーパーでなく、個人からの口コミでの普及は、SNS時代ならではの考え方ですね。育成方法がLINEというところも、個人と企業との関係でなく、仲間みんなで育てる一体感があって楽しそうです。次回苗の配布があるなら、是非応募したいです。

家庭菜園家に苗を配ってゲノム編集トマトを育ててもらうことは斬新なアイデアで素晴らしいと思います。夢を語るその迫力は魅力的です。ただ、トマトペースト、粉末トマトを機能性表示食品として大丈夫かな。

初のゲノム編集食品、ギャバトマトには大変期待しているが、ギャバトマトを生鮮品としてだけでなく加工食品、それも健康食品のようなピューレ、粉末を考えているというお話しには大変がっかりした。生鮮品として、食品として摂取できることを一番の利点とするゲノム編集技術なのではないかと思う。ギャバの入っている健康食品は山ほどある。それと同列にしてしまうのは何とも残念。また高血圧に悩む人をターゲットにするということで、お話しの中でもその効能を何度も述べていた。サナテックシード社のHPの動画でも利用者の声の形で効果を述べているが、景表法に抵触するのでは…危ういなあと思った。

話を聴いていて生産者側、販売者側の今後ゲノム編集食品を扱うことに対するリスクやメリットなど苦勞や問題や現状が歯に衣をさせぬと言うか、体感が分かって良かった♪吸い込まれそうだった。今後が楽しみ♪

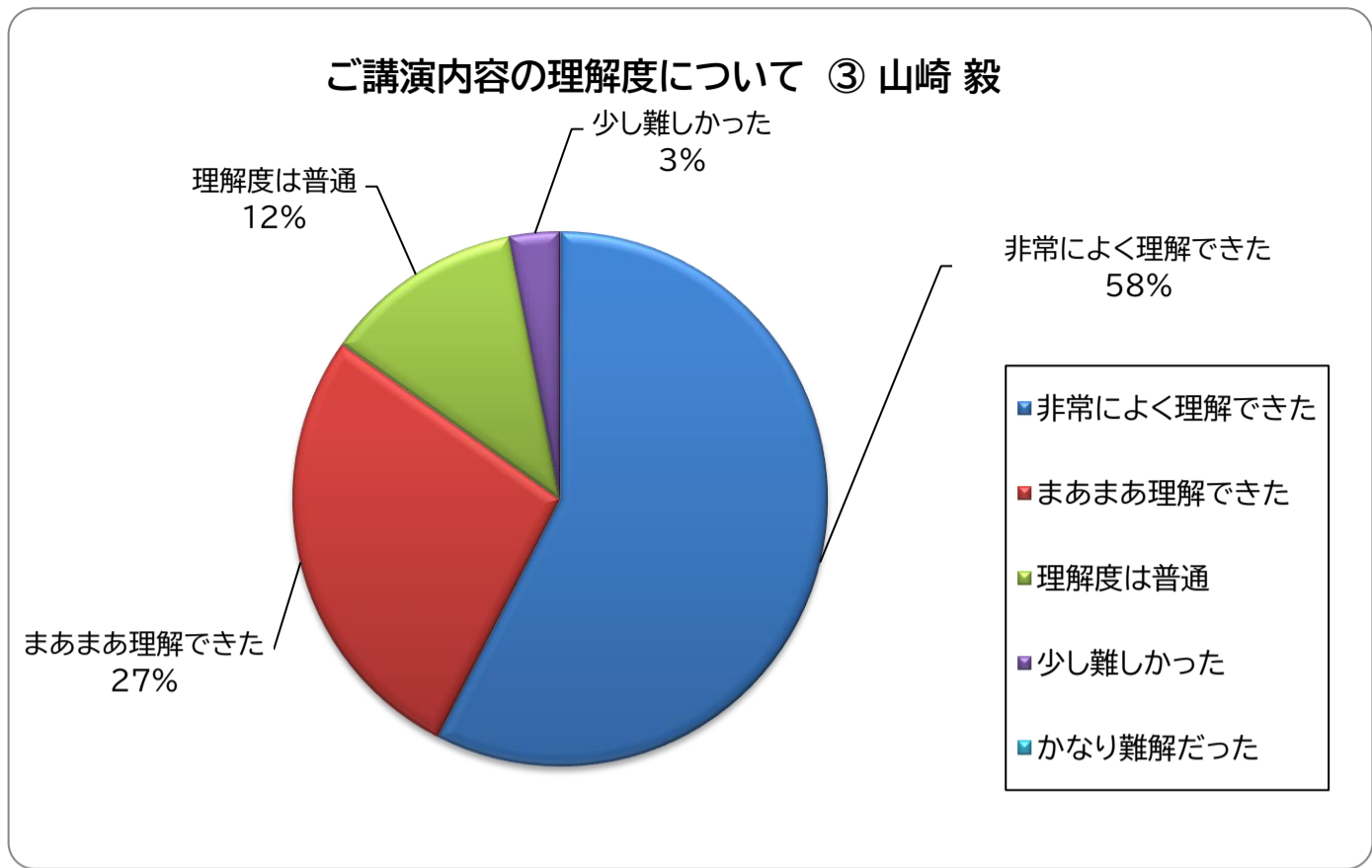
会長の熱い思いが伝わってきました。今後の展開が楽しみです。

先導的取り組みは眼から鱗です。

遺伝子組み替えは生産者へのメリットが多かった。それに対してゲノム編集トマトは消費者へのベネフィットが大きく、そこをマーケティングに活用することで、リスク問題も解決してしまう手法はとて素晴らしいと思いました。

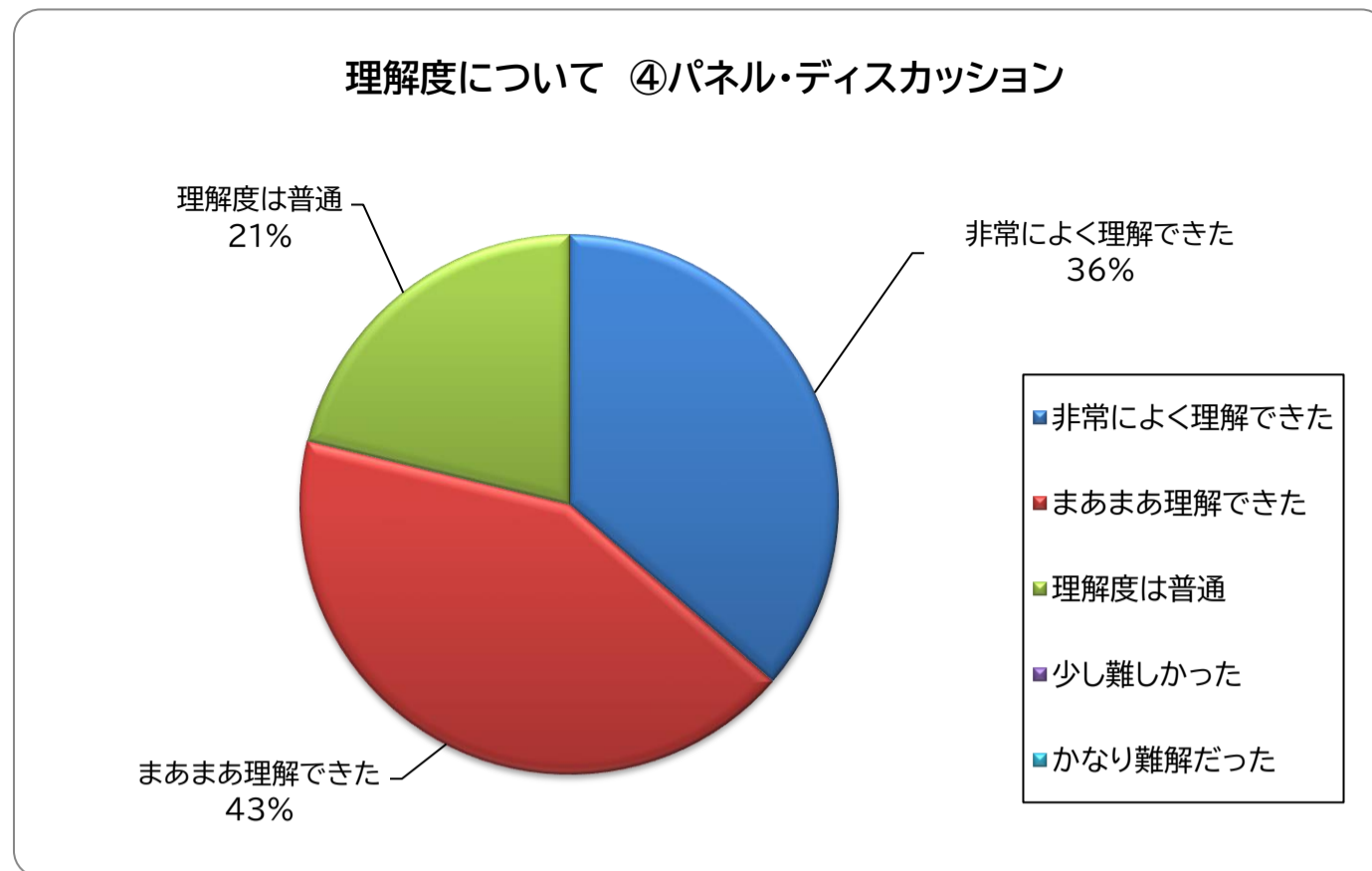
極めて明快で説得力のある講演有難うございました。素晴らしいアプローチです、小さく蒔いた種が世間に大きく広がると思います

③ 山崎 毅(SFSS理事長)『ゲノム編集食品のスマート・リスクコミュニケーションとは』



紹介されたのは特定のステークホルダーの立場からのリスクコミュニケーションであって、そもそもneutralな立場からのスマート・リスクコミュニケーションはあり得るのかなと疑問に思った。
いつもお世話になっており、ありがとうございます。
ゲノム編集の今後のリスクコミについてどの王にしていくのが良いか、考えるヒントをいただきました。
学会で報告された結果の統計分析とそこから導かれる結論のところ、ついていけなかったです。不安に寄り添う問いを投げかけて、科学的な情報を提供することは、効果ありそうと感覚的に分かります。一方で、その問いの内容をどう整理するか、悩むところです。一般的な不安の声の拾い方などがやり方として示されると、リスクコミュニケーターの大きな助けになると思いました。
許容できるリスクを安全と明確にすることで、理解が深ま島慕う。一方、いわゆる反対派はリスクを許容しないと考え、平行線をたどるように思いました。
リスクコミをどのように進めるか理解する上で、非常に勉強になった
リスク認知バイアスに向き合い、寄り添うことでの解決方法は非常に興味深かった。二者択一で相対的にリスク説明をすることで理解を求めるのは、日常でも使える手法として参考にさせていただきます。一点、個人的に気になった点を挙げると、リスク認知バイアスの補正についての説明の仮説検証について。非常に分かり易かったですが、・一定数で、知らないものを理解することを放棄した方がいらっしやること →科学的、学術的な根拠をもってしても、理解することを放棄した方への対応は困難 ・一定数としていますが、実感としては思いの外多いこと(これこそ根拠がありませんが) ・説明コストは企業負担であること →説明できる専門家が、小売り企業に多く在籍している訳ではない 理解をしたうえで選択的に許容、排除されるという方が多数派になることを願っています。
スマートリスクコミュニケーションという手法があることを初めて知り、今後広まっていく(広めていくべき)だろうと感じました。
確証バイアスの考えに基づいた、消費者不安心理に寄り添ったスマートリスクコミュニケーションの考えは、確かにお客様相談室の方がよくされている手法に感じます。GMと同じ道をたどらないためには、いかに技術の周知、広報をしていくかが大事だと思うので、単にこちらの意図を伝えるのではなく、受け取る側の認識に寄り添った伝え方の工夫が大事なのかと改めて感じました。
スマートリスクコミュニケーションの手法について興味深く感じました。
ゲノム編集のリスクコミは改めて難しいなと感じています
自然に起きる可能性のある突然変異を人為的に行ったものというだけで安全性が担保できることを消費者が納得できるか疑問があります。GABAが通常の4, 5倍も含まれるトマトの安全性について食経験の可能性で説明できるでしょうか？
何度かお話をきくことでスマートリスクコミがいかに有効かを感じています。今後スマートリスクコミュニケーションを自分でも社内、関係者、弊社のお客様へどう実践するかをより考えていきたいと思いました。
学会で発表された内容に興味がありました
以前伺った内容もありましたが、繰り返しお願いしたい。
ツイッターでリアルタイムの問題を取り上げ解説してくださる、草の根活動。国に欠けているのは、こういう丁寧な説明や歩み寄り、不安を共感する努力を行わないから、国民が政治に不信になるのかなと感じました。不安を感じる人に寄り添ってわかりやすく説明すること、根気のいる活動です。
一般消費者に近い知識レベルの私にとって、二者択一の原理を利用した豊洲問題の解決方法は分かりやすく、すっきりします。
お話しにあったスマート・リスクコミュニケーションを様々なところで進めていってほしいです。期待しています。
勝手な考えでの意見ですがSFSSアリキなお話しでした。とても総まとめ的な？全ての話しを依り一層理解が深めて要るようでした。良かったです!☑
認知バイアスの難しさを改めて感じています。
スマート・リスクコミュニケーションの方法論について参考になった。
リスク情報の送りでの条件など社会学的な部分がとても参考になりました。
ゲノム編集食品がスマート・コミュニケーションの最も良い実践対象と思いチャレンジします

④ パネル・ディスカッション(進行:SFSS山崎)『ゲノム編集食品のリスクのあり方』



竹下氏の発言時間があまりに長すぎた。
白熱した議論で、意義が高いと感じました。
本議論は、ゲノム編集について理解を示す方がほとんどの中での議論ですから、違和感も感じることもあまりありませんが、一般社会では今後どのような意見が出てくるのか気になるところです。今回出席された方々や栽培モニターという多くの支持者もいますので、価値があるトマト、ゲノム編集技術、研究への理解が進むことを期待したいと思います。
竹下会長の講演自体には、うさん臭く思いました。しかしながら、パネルディスカッションでの議論を通して、世間一般に浸透させるためには、サナテックシードで進めているような手法も必要なのだと考えるようになりました。
都合により17時頃退席しました
スライドでは見え辛い竹下会長(サナテックシード社)のお考えを知ることができた
議論が白熱しており、やや理解が追い付かない部分もありました。
開発企業としての意見が多く、十分なパネルディスカッションとはなっていないように思う。海外からの同様の製品の流入で消費者への正しいリスク評価が阻害されない工夫が必要と思われる。その辺の議論ももっと入れてほしい。
時間がなく見れませんでした。後日見たいと思います。案内願います。
大変ディスカッションは面白かったが、竹下氏の発表のみの議論となってしまったのは残念だった
・ここではありませんでしたが、宮下さんからの質問、「突然変異が大丈夫という根拠」は、同じように疑問がありました。育種でもすべての作物で安全性が確認されているとか、そもそも経験上確認する必要がないものもあるとか、その辺がよく分かりません。・消費者にとって付加価値のあるゲノム編集食品は、積極的に表示されると思いますが、生産者にメリットがあるもの(有益アップ、病気に強い、労力削減など)は、積極的に表示されないのではと思います。
ゲノム編集トマトをきっかけにゲノム編集食品についての理解度を一層増すことができた白熱のパネルディスカッションと感じました。大変勉強になりました。
十分な時間をとって、忌憚のない議論がされたと思います。
ここでも竹下達夫さんの話がわかりやすく参考になりました。
議論が盛り上がり、非常に面白かったし参考になった。
竹下先生の独壇場となったパネル・ディスカッションでしたが、自信のある説明で理解が深まりました

⑤ 今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください

ゲノム編集食品の現状がよく判りました。本フォーラムではそうでなかったが、GM食品との違いを強調する説明が多い現状は心配。ゲノム編集利用の種は遠からず尽きるだろう、その時遺伝子組換えはどう見られるようになっていくのか？ knock-inも含めた、遺伝子組換え技術の一環としてのゲノム編集のしっかりした説明が必要。
研究者やそれを理解する周辺の方は、日本発ゲノム編集トマトが世に出ることを素晴らしいと思い、一方で多くの一般消費者はそのようなことはどうでもよくて、美味しく安ければ買う、また、そうでなければ本当に大丈夫なのか怖いものというのが実際だと思います。その溝を埋めていくのにリスクが必要だと思いますが、今回のフォーラムで、どのような伝え方が良いのか、参考になるお話を多くお聞きすることができました。
竹下会長の発言にありましたが、ファッショが業界主導から市民主導に変化していることには興味を感じましたが、一方で、科学の分野においては、そういった流れをそのまま受け入れるわけにはいかないと考えます。専門知識をどのように市民に納得してもらおうかが重要だと思います。
パネラーの皆様の独自の視点があり、興味深く拝聴させていただきました。関心の高いクローズドの中でしたので、否定的な消費者との質疑応答があると、より理解が深まるように感じました。
ゲノム編集食品が何たるか、なぜ表示制度が導入されなかったかが概ね理解でき、参考になりました。パネラーの方がゲノム編集の理解派であったためか、やや偏りがあったようにも感じました。よく知らないというのが大半であることを考えると、中立的なパネラーも交えるとよいと感じました。
これまで、さまざまな広報活動をされてきた上で、なかなかゲノム編集の正確な認知の広まりがない状況に、関係者様のお疲れもあるかと思えます。しかし、事実としてモノが出てからしか評価されない状況があるとしても、その論拠で周知、広報の手を緩めるとGMと同様の道をたどることにつながりかねないので、これからも投げやりになることなく、科学的根拠に基づいた啓蒙活動は重要だろうと感じました。
参加前は時間が長いのではと思いましたが、それぞれ興味深い内容で長くは感じませんでした。オンラインで参加もしやすかったです。
途中かなりピリピリな空気が流れてしまい、質問がためらわれる雰囲気...
少し企業よりになっているように思えた。

非常に有意義でした、ありがとうございました。
遺伝子組み換え食品は、遺伝子を操作にマイナスイメージが強く、一般食品として普及しませんでした。ゲノム編集食品は、賢い消費者が増え、テレビなどの不安を煽るようなメディア以外から正しい情報を得て、今後増えるような感じがしました。
3つのテーマ、パネルディスカッションとも素晴らしい内容、パネラーの方々と、それぞれのお立場からの考えは中身が濃く、面白く、あっという間の5時間でした。ありがとうございました。
否定的な考え方の参加者より肯定的な考え方の参加者が多いため、その辺が残念に感じました。拒否の考えの方たちの参加をどう呼び込めるか。せっかくのフォーラムがもったいなく思います。
途中でアンケートを取るの、面白い試みと感じました。
重要な取り組みなので、ゲノム編集食品開発のポイント・ポイントで実施していただきたい。
リスコミをうまくマーケティングに絡める事が重要だと思いました。また、理解は求めるが説得しないという言葉が印象に残りました。少し突き放した感じですが、だからこそそのプライドを感じます。
栄養価が高い物は、消費者にその効果をPRできるが、害虫に強いとか寒さに強いとか栄養価以外の効果を高めたゲノム編集食品が開発、発売された時、どのように販売されるのかなと思いました。
極めてアップデートでフレッシュな議題と当事者参加のフォーラム良かったです

⑥ 今後、食の安全・安心・リスクに係る分野で、どのようなテーマのフォーラムを希望されますか？

ここ1年以上のコロナ禍で日本の科学技術立国の空洞化が明白になった。報道でいうPCRはリアルタイムPCRなので最大の特長は定量性なので重要な知見が沢山得られたはずだが、陽性陰性という定性判定にしか使われていない。先日厚労省が初めてCOVID-19のPCR検査の国内向けマニュアルを作ったとの報道があり、今頃とあきれた。ワクチンが国産でないことも恥だが、輸入も完全に競り負けたことが明らかです。
何度かお話に出てきた、機能性表示など健康食品
残留農薬について
漠然として恐れ入りますがコロナの状況下でも食品業界がより盛り上がる内容のものがあればよいと感じます
福島原発のトリチウム水の海洋放出のリスク評価とリスコミの方法
遺伝子組み換え食品について。
トランス脂肪酸、アレルギー表示、クリーンラベル、代替肉等についてのトレンドがわかるフォーラムを希望します。
次回「残留農薬のリスコミのありかた」についてのリクエストです。(私事で恐縮ですが)そもそも農薬への認識・知識が薄い。農家が「適切に使用する」とはどういう事なのか(インターバル(浸透移行性、分解性)、資材保管、器材の管理)や併せてご説明頂けると有難い。
食品表示について、食品アレルギー
福島の処理水の海洋放出がなぜ安全なのか、なんとなく理解している部分と疑問とがあります。なぜ不安な人が多いのか、風評被害が発生するのか、どうすれば不安な人が納得するのかなどを教えていただきたいです。
放射線関連は、処理水の話が出てくることもあり、触れても良いのではないかと思います(相変わらず、濃度の概念を理解できていない人が多いと感じます)。
リスクに関する日本メディアの報道傾向について
添加物…ではなく、防腐剤にフォーカスしたリスコミ
学校給食・管理栄養士・文科省の方々と講師に添加物・遺伝子組み換えの理解が浸透しない要因を議論するフォーラムを望みます

⑦ ゲノム編集食品に関するリスクコミュニケーションのあり方について、どうあるべきでしょうか？ご意見をお書きください

遺伝子組換えとの違いを強調する説明は必ずブーメランとして返ってくる。遺伝子組換え技術の中の新技法としての説明に意を用いるべき。
ここでは書き切れないので、別途記事に書く予定です。
不要なバイアスを形成させない、確証バイアスを持たせないようにすることがまず第一だと思います。大丈夫や良い面だけを前面に出すと、分からないから不安と思っている人にはあまり良い影響がないかもしれません。バイアスがなければ、価値のあるもの、美味しいものは売れるし、次第に広がり、技術自体の価値も理解されやすくなると思います。どう伝えれば良いか、考えていきたいと思っています。
ゲノム編集技術は、いわゆる遺伝子組み換えまで可能な幅広い技術であり、ゲノム編集食品は、その一部の技術を利用したものであるということを明確しておく方が、将来の技術発展を考えた時に、有効ではないかと感じています。
まだまだサイエンスと消費者の考え方に乖離があるように感じた(単なる品種改良と同じ(科学者)と、薬剤を使って操作している(消費者))。科学者はこれで説明しつくしたと思わず、この乖離を丁寧に洗い出し、丁寧に説明していくしかないと思う。
・ゲノム編集食品について、簡単で分かりやすいものがあると良いと感じました。→小島先生が提唱されていた、クリスパー君とキャス君の実現を楽しみにしています。・消費者が選択出来るということが重要ですが、排他的に対応するのは相互の理解は困難だと考えます。否定ではなく理解のもとで選択してもらえる文化にする為にどうするか、ということもご考慮いただけますとより良いように感じました。
どうしても、ゲノム編集食品という言葉自体に問題があるように思えてなりません。通常の放射線照射育種や変異誘導化学物質育種にそんな放射線照射選抜食品なんて名前付いたら消費者は食べるでしょうか？ゲノム編集は技術の名前であって、食品につける名前ではないように思います。単なる育種手法の一つにすぎないのに、新規技術の浸透というのは非常に難しいなと感じました。今更名前を変えるのも難しいし、エントリーがいかに大事か考えさせられます。
今回のセミナーを聞き、考え方は様々で一筋縄ではいかないと感じました。サナテック社のような先陣を切る企業から、徐々に消費者の理解を進めていくしかないのではと感じます。
現在まだ製品が一般市場に出ていないため認知度が低い。これから多く出回るようになった時の消費者の反応が予測できないように思う。今から十分なリスコミが必要と思われる。
今回のトマトの取り組みがどう進むか、どう報道されるか、で今後は消費者心理に影響することは間違いないと感じました。合わせてやはり「教育」がどうなるか、だと感じます。国民全体規模とにかかると大規模でスマートリスコミをする場が必要だと思います。
消費者へのメリットを伝えていくことが重要ではないかと感じました。
私自身どうしても遺伝子組み換え作物の事例があるため、伝える事の不安が先に立ちネガティブになりがちだと思ふ。竹下会長が「技術は既にあり認知に後から」と言われた、まず伝える事は「開発の目的」である事、これは事業であり実験ではない。ポジティブに捉えたい。
栽培する側のメリット、食べる側のメリットを、安全性とともに伝えていく必要があると思います。
実体験を取り入れたリスクコミュニケーションが効果を発揮すると思います。

安全か危険か？安心か不安化ではなく、高機能、ベネフィットを進めていく、新しい情報を知らないで怖がっている人は損するよね、という姿勢が功を奏するかもと竹下さんの話を聞いて思うようになりました。ただし、素材によると思います。もちろん低農薬で育つなどのメリットがエシカル消費として理解されればそこも解決できると思います。

遺伝子組み換えで失敗した経験を踏まえ官・民・専門家が足並みをそろえ優良確信を持てる ゲノム編集食品を世の中に発信することで消費者に受け入れられると思います

⑧ 今回のオンライン・フォーラムについて、ご要望や改善すべき点がありましたら、ご意見をお書きください

竹下氏のように長々と話す癖のある人に、腰を折らずにセーブさせることは至難とは思いますが、工夫して欲しい。

パネルディスカッションについて、フリーテーマではなく、一定のテーマが事前に決まっていれば、聞き手としても受取りやすく感じました。

音声がかたまに途切れることがありました。

オンラインでの実施ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします

コロナが解決してもハイブリッドでオンラインは続けて欲しい

画像の乱れや音声の不具合もなく、スムーズに参加することができました。

オンラインは個人の環境設定の条件次第です。不具合がでないようにと気になる部分があります。

今回、演者の接続がスムーズにいかないケースが見られたように思います。事前確認していても、演者の慣れの問題も絡んだり難しいのかとも感じますが。

いつもお願いですが、オンラインの場合3時間くらいで終わるとありがたいです。

音声・画像ともに良好でした、講演後YouTubeで復習できアンケート回答も容易になり続けてください

⑨ SFSS事務局へのご要望

本日も有難うございました。小部屋でメールをいただきましたのに返信できずに失礼いたしました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

参加者の社名をオープンにされると、なかなか発言が難しくなる場所もございますので、ご配慮いただけますと幸いです。

興味深いフォーラムでした。パネラーの皆様、今回のような機会を提供して下さった運営の皆様、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

ありがとうございました。有意義な時間でした。